3．小豆島町中山地区の神社建築
－熊野三所大権現・春日神社宮殿・春日神社定桟敷－

岸　泰子

はじめに

本節では、小豆島町中山地区にある神社建築のうち、熊野三所大権現と春日神社宮殿・定桟敷（位置は図 1 参照）の建築調査の成果を報告する。

本報告は、以下の体制で実施した調査にもとづくものである（Ⅳ部 1 章参照）。

調査日・対象・参加者　2023 年 9 月 15 日　春日神社定桟敷
参加者　文化遺産学フィールド実習受講者・担当教員
2023 年 12 月 11 日　熊野三所大権現・春日神社宮殿
参加者　岸・松岡

なお、調査対象の選択ならびに調整に関しては、小豆島町教育委員会の真砂祐樹氏にご指導・ご協力をいただいた。

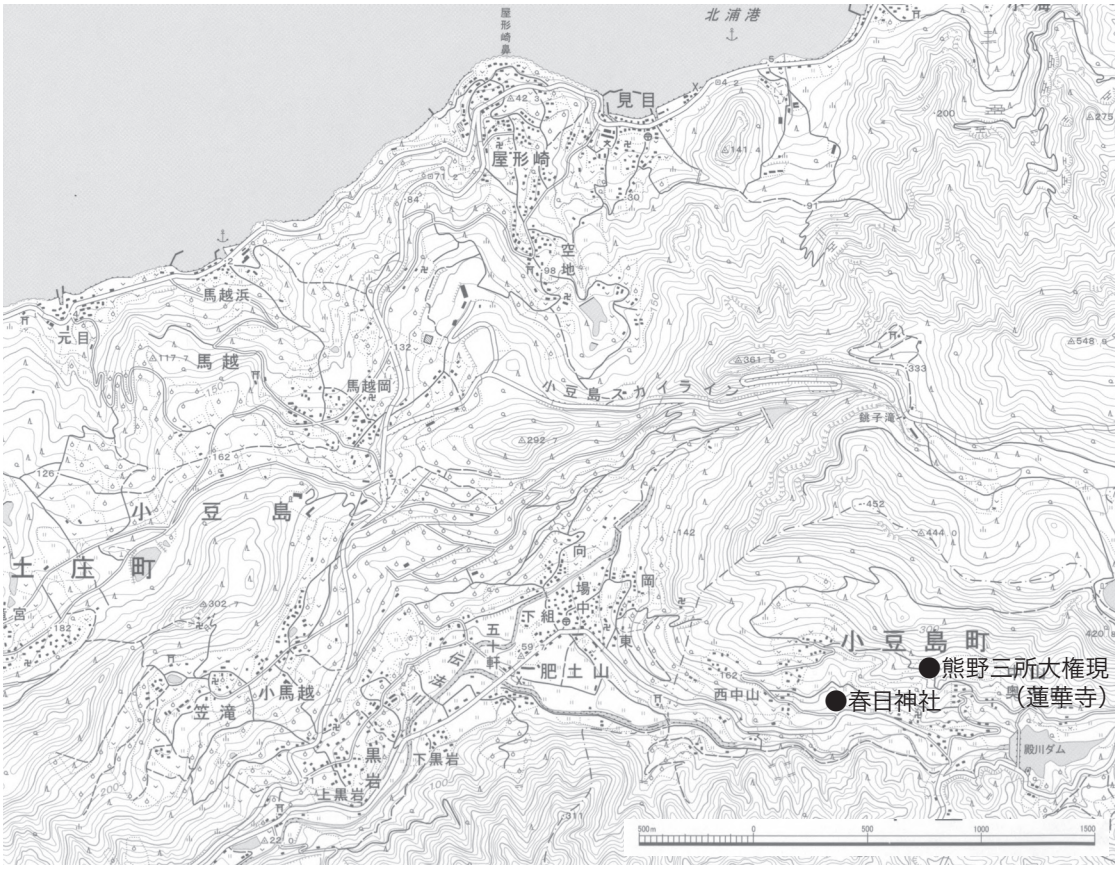

図 1　熊野三所大権現・春日神社位置図（国土地理院 1/25,000 に修正・加筆）

１．各個解説

（1）熊野三所大権現

熊野三所大権現は、小豆島町中山の蓮華寺内にある摂社である。蓮華寺は中山地区の北、殿川ダムの北西に位置する寺院で、小豆島霊場第 44 番札所である。境内には本堂のほか、鐘楼や門、湯殿の水などがある。熊野三所大権現は本堂の西側、湯殿の水の北側にあり、湯殿の水の横にある階段をあがったところにある平場に立つ。

建物は一間社流造、柿葺の小規模なもので、覆屋のなかにある。軸部は、円柱を切目長押、内法長押、頭貫木鼻で固める。柱間には正面に格子戸を入れ、側面と背面は板壁で閉じる。身舎の組物は三斗枠肘木、実肘木で、中備は蟇股である。軒は二軒繁垂木で、妻は太瓶束で飾る。身舎の三方に切目縁を廻し、高欄を付す。高欄の形式は損傷が激しいためにわからない。内部は内陣と外陣からなる。内外陣境には板戸を入れる。内陣には左から熊野大権現、天照大神宮、愛宕大権現を祀るが、内陣内部に間仕切りはない。

庇は角柱を虹梁形頭貫木鼻で繋ぐ。組物は連三斗実肘木で、中備は蟇股である。身舎と庇の間には繋海老虹梁を架ける。

腰より上部に彩色がある。建立当初から彩色があったかどうかは分からない。

建立年代は、小屋裏妻面に打ち付けてある棟札から元禄 15 年（1702）とわかる。虹梁の絵様の様式が示す年代とも一致する。また、覆屋には大正 2 年（1913）の修理の棟札がある。大権現の桁より上部にみえる中古材はこの大正 2 年の修理時に入れられたものと考えられる。

なお、覆屋の板壁には墨書が残る。風蝕がすすんでいて解読不可能なところも多いが、天保 12 年（1841）の「奥州南部住人　同行二人」という墨書などがみえる。ほかにも備前の人や、天保の年号もみえる。聞き取りによるとこの覆屋は昭和 30 年代ごろにも改築されているとのことである。この板壁が改築の際にそのまま残されたものとすれば、江戸後期に各地からこの社に参詣があったことを示すことになり、極めて重要な史料といえよう。

棟札から建設年代がわかる遺構であり、後述するように小豆島町の神社本殿建築の指標となる建物である。

屋根や縁まわりなどが大きく破損している。早急な修理が望ましい。

（2）春日神社宮殿

春日神社は、中山地区のほぼ中央部に位置する神社である。境内の北側に本殿・拝殿が立つ。本殿と拝殿は接続している。拝殿は、前方中央間一間四方を土間とし、そのほかには床を張る。割拝殿の馬道を前方部分だけ残した形式となっている。この拝殿の形式は小豆島内でいくつか確認できる。拝殿の前には後述する定桟敷がある。

本殿の内部後方中央部にある宮殿は、一間社流造、板葺の建物である。木製土台の上に円柱を立て、切目長押と内法長押で繋ぐ。組物や中備は入れない。軒は一軒繁垂木である。妻面には束を立てる。内部は内陣と外陣からなる。側面を板壁で閉じ、内外陣境には板戸を入れる。正面の建具は外れていて不明である。庇は角柱を虹梁形頭貫木鼻で固める。虹梁形頭貫の絵様は正円に近い形の渦とやや単純な若葉からなり、その彫りは浅い。その絵様の様式は（1）の熊野三所大権現と類似している。組物は連三斗実肘木である。中備は入れない。軒は二軒繁

垂木である。正面を飾るために庇のみ二軒としたのだろう。身舎と庇は繋虹梁で繋ぐ。

宮殿の横には数枚の棟札が保管されている。そのなかに元禄 11 年（1698）の板尾大明神建立の建立棟札がある。板尾は春日神社がある地区の小字であることから、春日神社の棟札であるとみてよいだろう。庇の虹梁形頭貫の絵様の様式からみて宮殿は元禄 11 年の建立とみてよい。

装飾が少なくおとなしい造りの宮殿であるが、丁寧に造作されている。棟札から建立年代がわかる点も重要である。絵様が（1）熊野三所権現社の虹梁絵様と極めて似ている点も重要で、両者の絵様が中山地区の 17 世紀後期の寺社建築の絵様の特徴を示していると考えてよいだろう。

（3）春日神社定桟敷

春日神社定桟敷は本殿・拝殿がある敷地から石段を下がったところにある狭い平地状の敷地に立つ。春日神社境内の南側、県道に面したところに国の重要文化財（民俗）に指定されている舞台がある。舞台は春日神社側、すなわち北面して立つ。その舞台の前（北側）には観劇できる場所がある。定桟敷は舞台の北側にある観劇できる場所よりも北側のさらに一段高い場所に南面、すなわち舞台に面して立っている。

建物は、桁行 3.9 メートル、梁間 3.9 メートル、切妻造、桟瓦葺の建物である。内部は後方の床高を一段あげて、前方を下段、後方を上段とする。正面には建具を入れず、開放とする。側面と背面は土壁で閉じ、背面西側に出入り口を設ける。装飾はない。

建立年代を示す資料はない。風蝕等からみて 20 世紀前期の建立と推定される。聞き取りから昭和後期に改修されていることがわかる。

また、聞き取りからは、昔は村長などがここで観劇していたことも知られる。現在は観劇の際に使われることはない。

舞台で開催される催しを観劇するための建物が神社境内にあるという点は、中山地区の社会構造の特徴を把握する上で重要となってこよう。神社・舞台と一体で保存されることが望ましい。

おわりに

以上、中山地区にある 3 棟の神社建築を紹介した。

（1）熊野三所大権現と（2）春日神社宮殿はいずれも棟札から 17 世紀後期に建立されたことがわかる建物である。絵様の様式も似ており、この 2 棟がこの時期の寺社建築の様式の指標となると思われる。

一方、（3）春日神社定桟敷はおとなしい造りの建物であるが、村長などが舞台をみるための施設であり、神社にある舞台の機能を考える上で重要な建築遺構である。

なお、今回の調査では 3 棟のみを調査したため、特徴を充分に抽出できているとはいえない。中山地区の寺社建築の特性を明らかにするためには、小豆島町の寺社建築の特性を把握し、そのなかで評価する必要がある。ほかの地区の建造物調査の進展を期待したい。

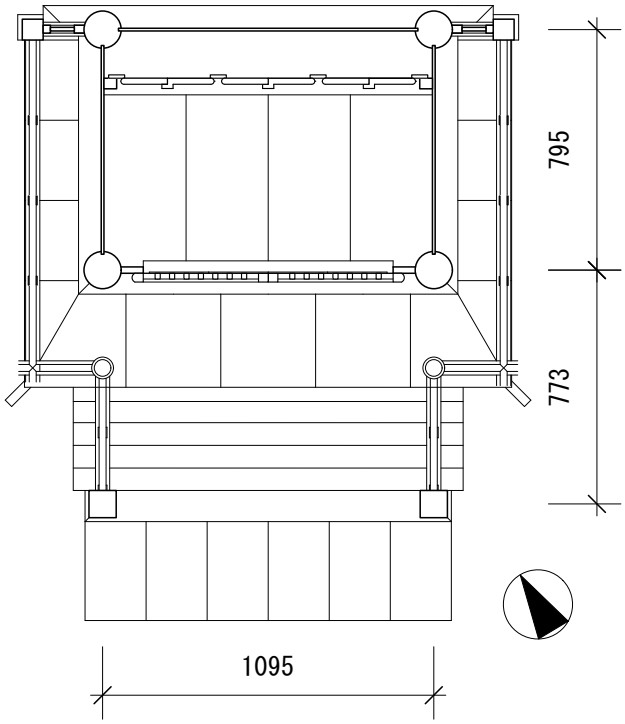

図 2　熊野三所大権現平面図 (1/25)

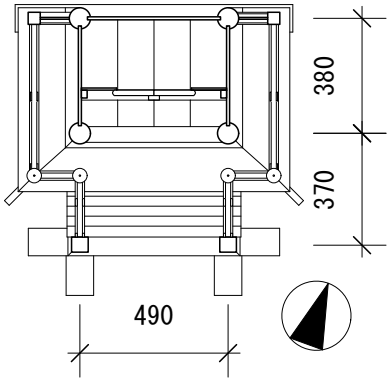

図 3　春日神社宮殿平面図 (1/25)

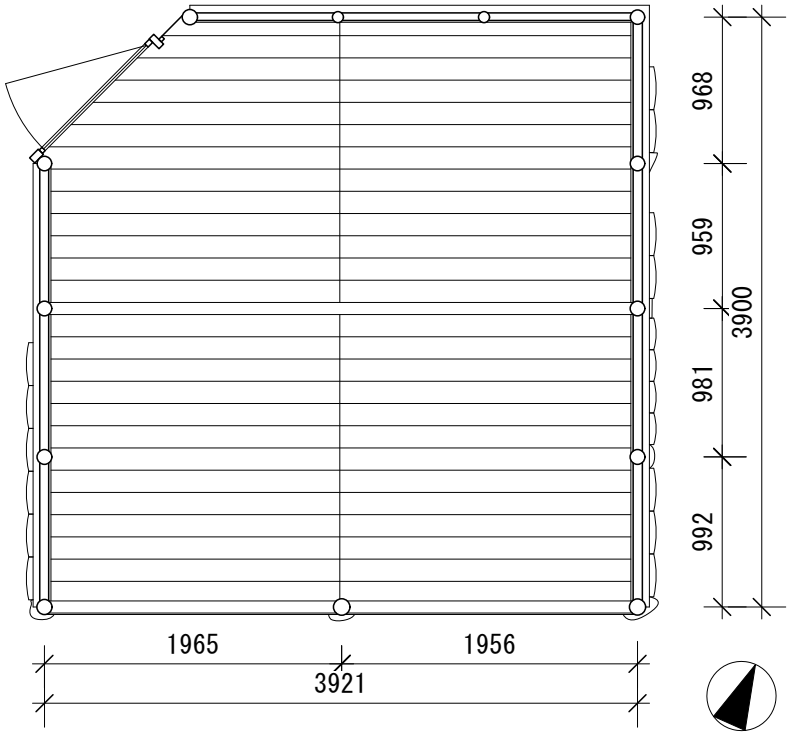

図 4　春日神社定桟敷 (1/50)

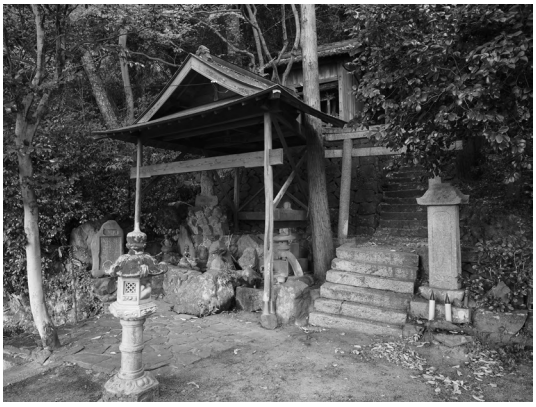

写真１　熊野三所大権現　全景
（手前は湯殿の水、奥が熊野三所大権現）

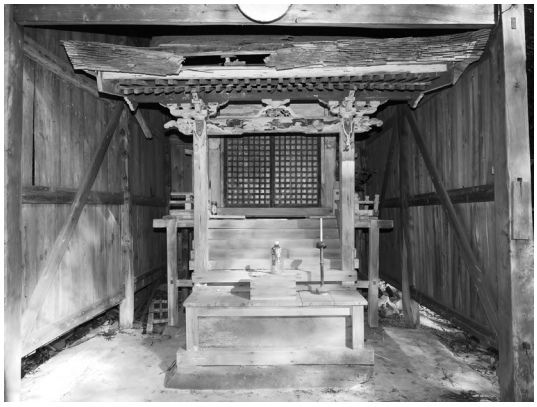

写真２　熊野三所大権現正面

写真３　熊野三所大権現全景

写真４　熊野三所大権現棟札

写真５　熊野三所大権現身舎妻

写真６　熊野三所大権現身舎妻面虹梁絵様

写真 7　熊野三所大権現庇見返し

写真 8　熊野三所大権現庇虹梁絵様

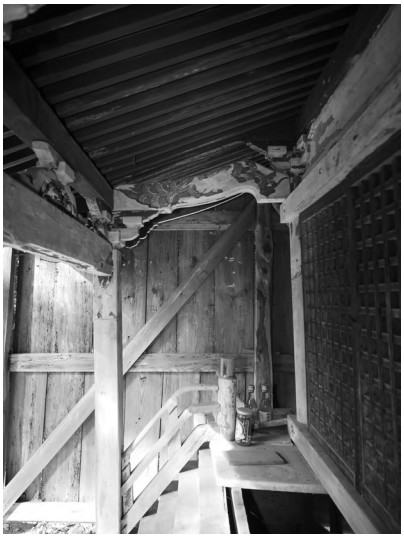
写真 9　熊野三所大権現身舎庇繋海老虹梁

写真 10　春日神社宮殿全景

写真 11　春日神社宮殿側面

写真 12　春日神社宮殿庇見返し

写真 13　春日神社宮殿庇虹梁絵様

写真 14　春日神社宮殿棟札

写真 15　春日神社定桟敷正面

写真 16　春日神社定桟敷全景

写真 17　春日神社定桟敷内部

編集後記

フィールド集報の組版作業は、歴史学科文化遺産学コースの考古・建築・地理・文化情報の合同実習メニューとして学生が Adobe 社の InDesign を利用しておこなっている。

今年度は、３年ぶりに多様な場所・フィールドで調査をおこなうことができた。調査時だけでなくその後の作業においても多くの方々からご協力を賜った。ここに改めてお礼申し上げる。

海外の調査も徐々にではあるが再開されるようになった。来年度はまた違うところに行きたいと思う今日この頃である。（き）

京都府立大学文学部歴史学科
フィールド調査集報　第 10 号

編集・発行　京都府立大学文学部歴史学科
〒 606-8522　京都市左京区下鴨半木町 1-5
発　行　日　2024 年 3 月 30 日
印　　刷　株式会社 北斗プリント社
〒 606-8540　京都市左京区下鴨高木町 38-2